

二十三歳	五、三三	〇	一四、四五七	七〇	二、七二	二	二、七二	五七、四五八
二十四歳	五、三三	〇	一四、三八七	六八	二、七〇	〇	二、七〇	三九、七〇〇
二十五歳	五、三三	一	一四、三一九	一	二、七〇	一	二、六九	二七、八七九

我國法が滿二十歳ヲ以テ成年トシ一方滿十七歳乃至十八歳ヲ以テ準成年ト看做ス(憲法第十三條、徵兵令第一條、海軍志願兵條例第四條、軍役志願者規則第二條等參照)コトハ大ニ其ノ根據アリト謂ハザルベカラズ。サレバ人體ノ發育最モ旺盛ナル此ノ十三歳乃至十八歳未滿ノ間ニ於テ身心ニ過激ノ勞働ヲ強フルトキハ必然該本人ノ完全圓滿ナル發育ヲ妨ゲ若ハ其ノ健康ヲ害シ不幸、短命ノ因ト爲ルベシ。然ルニ船舶内ニ於ケル作業ハ一般ニ危險困難ナルヲ以テ曩ニゼノアニ於テ開催セラレタル第二回國際勞働總會ニ於テハ十四歳未滿ノ幼年者ヲ海員トシテ使用スルコトノ絶對禁止ヲ協約案トシテ採擇シタルガ就中火夫若ハ石炭夫ノ作業ハ特ニ過激ナルハ説明ヲ要セズ。サレバ假令十四歳以上ノ者ト雖モ未ダ十八歳未滿ニシテ身心發育ノ中途ニ在ル幼年者ヲ

シテ此ノ種ノ勞働ニ從事セシムルコトハ安當ナラズト曰ハザルベカラズ。
 (二)各個人ノ智能ヲシテ充分ニ啓發セシメ人格ヲ修養シ職業ニ必要ナル教育ヲ授ケテ其ノ能率ヲ高メシムルコトハ之ヲ小ニシテハ國家ノ隆昌、之ヲ大ニシテハ人類ノ幸福並ニ社會文化ノ進展ノ基礎ニシテ夫ハ一ニ各國ニ於ケル普通並ニ専門教育ノ普及ノ力ニ俟ツベキモノナルベシ。近來各國何レモ教育ノ普及ニ力ヲ用ヒ單ニ其ノ義務教育ノ年限ヲ高ムルニ満足セズ其ノ修了後モ數年各種ノ補習教育ヲ受ケシムルコトヲ獎勵シ各國共十八歳位迄ハ補習教育ノ期間ト看做シツ、アリ。今船員ニツキテ之ヲ見ルニ今日ノ産業制度ヲ以テシテハ昔時ノ帆船時代ノ如ク船内ニテ其ノ乗組幼年海員ニ教育ヲ施スコトハ到底不可能ナリ。唯近來ノ傾向タル勞働時間ノ制限ニ伴ヒ船内ニ於テ餘暇ヲ得ルコト困難ナラザルニ到ルベキヲ以テ他部ノ船員ニ付テハ船内ニ充分ノ圖書ヲ備ヘ學習ノ便宜ヲ與ヘナバ之等幼年者ヲシテ各自ニ自習ヲ行ハシメ得ベシト雖モ石炭夫、火夫ノ如キハ其ノ作業甚ダ過激ナルヲ以テ幼年者ニシテ此